

小中一貫教育説明会（1日目）における意見・質問・要望等【概要】

日 時：平成30年10月19日（金）午後2時～午後3時50分

参加者：増田教育長 光嶋教育部長 岩井学校教育課長 細矢学校教育課課長補佐
茨木教育総務係長 田中学校教育係長
一般住民25名

【進め方について】

☆小中一貫教育の中身、これまでの取組経過について住民に十分な説明、報告がなされていない。6、7年前に住民対象にアンケートを取られたが、その時の住民の意見をどのように集約されたのか。アンケート結果等を共有しながら住民の意見を広く聞くべきだ。
（禅定寺、男性）

☆全国的に色々なシステムがあると思うが、小中、幼保を含めて教育環境を全部1つにして考えて行ける規模にあると思うので、宇治田原モデルといたものを追求してもらいたい。一貫教育の先にあるものとして描かれているビジョンについて知りたい。（荒木、男性）

☆奥山田小学校を廃校する時は、地域住民を含む関係者が幾度も会合を持たれて検討されたと聞いている。賛成、反対それぞれの意見を吸い上げることなく、決定したことだけを伝えるというやり方については、反対です。（郷之口、男性）

【進め方について（広報について）】

☆アンケート結果をホームページに掲載されているということだが、高齢者やパソコンを使えない方もいる。そういう人のためにも、こういった説明会をもってきちんと説明をしていくべき。（禅定寺、男性）

☆今回の説明会については、新聞折込をされ、ホームページにも載せられているが、町民の窓には一切載っていない。新聞をとっていない世帯は600くらいあると聞いている。こういった点が不十分に感じる。（立川、男性）

☆多くの意見、議論をとおして保護者に意識を持ってもらい、地域を含めた学校教育、その環境を作る機運を高める時期だと考える。それに繋がる広報活動を考えてほしい。
（荒木、男性）

【進め方について（町の各種計画等との関係性について）】

☆子どもの数が減るから小中一貫を統合型で進めるのだと受けとめている。町長は将来人口が増えるという考え方なので、分離型という結論が出るはずだが、そこが矛盾しており説明がつかない。総務部局との関係を整理し、皆に分りやすい町づくりを進めてほしい。

（立川、男性）

☆中学校付近は、土石流の危険がある土砂災害警戒区域と50cmから3mまでの浸水想定区域の中にある。新庁舎は今の庁舎が浸水想定区域にあり危険ということで移転すると言いながら、同じような危険区域に何故わざわざ小学校を建てるのか。矛盾している。

（禅定寺、男性）

【教育制度等について】

☆今日までされてきたことは、私の感覚では連携教育だと感じます。中学校にいた時に隣の高校の先生が教えに来られたり、中学生が高校の授業を受けに行ったりということを連携教育として行ったことがある。そのこととの違いはどのように考えたらよいか。

（禅定寺、男性）

☆中学生と同じグラウンドで安心して遊べるのか、クラブ活動が安全にできるのか、自転車通学の中学生と一緒に通って安全なのか。開校までにそういった不安を解消してもらえる機会をどう計画しているのか。両小学校が持っている長年の良さを、1校になった時に本当に引き継ぐことができるのか。（立川、女性：小学校保護者）

☆近隣では、宇治市や京都市内に施設一体型小中一貫校がある。本町で導入するなら、先進校での成果と課題を紹介し、ソフト、ハード両面の課題を本町に落とし込んで、どうしていくのかという説明をしてほしい。（禅定寺、男性）

☆小中9年間で子どもを育てるとあったが、実践校には3グループ（小1～小4、小5～中1、中2～中3）に分けて教育課程を組んでいる学校がある。子どもの発達段階に応じて分ける必要がある。そういった教育的な中身をどう考えているのかが伝わってこない。

（禅定寺、男性）

【教育制度等について（教員の負担について）】

☆学級数が減ることで教員負担が著しく増えている。これまでは、複数の教員が複数学級をみるということが可能だったが、今は1学級の教員が全てをみるという負担により、教育水準も変わってくると思う。（禅定寺、男性）

☆中学校の先生が小学校へ英語を教えに行かれるとか、先生の負担になっていないのか。
小学校にいる先生で英語を教えるということはできないのか。(郷之口、男性)

【教育制度等について（中1ギャップについて）】

☆今なら、中学や高校入学で環境が変わる中、子供たちは何度かギャップを乗り越え大人になっていくが、一貫校になれば一緒にいた子どもが、15歳を機にバラバラになり、新たな不登校の問題等を生みかねない。この点について、先進地の状況を紹介してほしい。
(禅定寺、男性)

☆中学の時期は気持ちが一番安定しない。不登校になり、中3の進路時まで引きずることもある。高校生になると周りも落ち着いてくる。希望や夢を持って進路を選択する意味で、できるだけ中1ギャップを少なくしてあげることが義務教育課程の中で必要だと考える。
(南、男性)

【教育制度等について（児童数及び学級数について）】

☆一体型にしたら出生数が少なくなっても複数クラスを設定できるという考えだと思うが、1学年の人数が34人になればどうするつもりか。校務負担も逆に増える。特別支援教育が今後さらに重要になるので、対処できるスペースを確保する上で地域に学校は残すべき。
(郷之口、男性)

【通学について】

☆バス通学になると住居が放射状に広がっており1台のバスを巡回させるだけで済まない。費用も莫大な金額になる。統合すれば、教育予算を削減できる側面が確かにあるが、通学方法によっては予算の負担増につながる。また、徒歩通学は、子ども同士の連帯意識を深め、児童が自然に触れ、感性を育むうえで非常に大きな経験になる。バス通学は、そういった機会を奪うことになる。(禅定寺、男性)

【施設、財政、その他について（財政的な試算について）】

☆バス通学の運行費用は年間どれくらいで試算しているのか、加えて小学校1つ建てるのに総額いくらかかるのか、その内、国の補助金はどれくらい出るのか。そういったことを含めて現段階でどのように考えているのか説明してもらいたい。(禅定寺、男性)